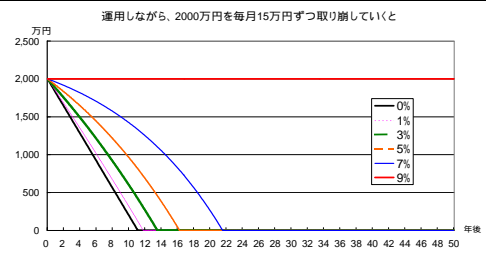


投資の基礎講座 「高齢になったらリスクを取ってはいけないのか」

高齢者がハイリスク商品を購入することはあまり適切とはいえませんが、「高齢になったらリスクを取ってはいけないのか」という一概には言えないと思います。それぞれの人に理解度や資金量、心の余裕など応じた商品を選択する必要があります。

右の図は、仮に2000万円のまとまった資金があり、それを一定の金利で運用しながら、毎月15万円ずつ取り崩した場合の資金残高の推移です。金利0%ならば、11年で底をつき、1%なら12年弱、3%で13年半、5%で16年、7%で21年半、そして、年9%で運用できれば、元本が減らない！ことになります。生命保険文化センターが行った意識調査(平成19年)によると、夫婦2人で老後生活を送る上で必要と考える最低日常生活費は平均23.2万円、ゆとりある老後生活を送るための費用として、最低日常生活費以外に必要なと考える金額は平均15.1万円となっています。

65歳から平均余命(男性で18.13年、女性で23.19年「第20回完全生命表」による)まで生きるとして、2000万円の資産だと現在の預貯金金利では底をついてしまうことになります。リスク商品は収益は勿論元本の保証もありませんが、ある程度リスクを取ることも必要なのではないでしょうか。



先週の金融市場データ

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	13,690.19円	14,338.54円	13,690.19円	14,338.54円
TOPIX	1,344.18	1,408.14	1,344.18	1,408.14
ニューヨークダウ平均	12,479.63ドル	12,646.22ドル	12,479.63ドル	12,638.32ドル
NASDAQ	2,444.67	2,522.66	2,444.67	2,522.66
10年国債利回り	1.740%	1.805%	1.740%	1.740%
5年国債利回り	1.300%	1.355%	1.295%	1.325%
無担保コールO/N	0.505%	0.527%	0.502%	0.527%
米国FFレート	2.1250%	2.3750%	1.9375%	2.2500%
米国10年国債利回り	3.84%	4.08%	3.84%	4.06%
ドイツ10年国債利回り	4.27%	4.43%	4.27%	4.40%
ドル/円相場	103.34円	105.44円	103.34円	105.44円
ユーロ/円相場	162.96円	163.73円	162.96円	163.18円
1ユーロ=ドル	1.5766ドル	1.5766ドル	1.5473ドル	1.5473ドル
豪ドル/円相場	99.06円	101.04円	99.06円	101.02円
NY原油先物(WTI)	132.19ドル	132.19ドル	126.62ドル	127.35ドル
NY金先物	925.80ドル	925.80ドル	881.70ドル	891.50ドル

スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成20年6月2日現在

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
東和銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
高崎信用金庫	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
郵便局	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%

法人企業統計調査

6月4日に1-3月期の「法人企業統計調査」が財務省から発表されます。本調査には、金融・保険業を除く営利法人を調査対象としたその年度における確定決算の数値を調査する「年次別調査」(昭和23年調査開始)と、金融・保険業を除く資本金1,000万円以上の営利法人を調査対象とした四半期ごとに仮決算数値を調査する「四半期別調査」(昭和25年1-3月期調査開始)があり、全国の財務局及び財務事務所等を通じて調査票を郵送し、自計記入を依頼する方法により調査を行っています。調査の結果は、「年次別調査」は9月に、「四半期別調査」は3月、6月、9月、12月に発表しています。(財務省HPより)

日本の営利法人(金融・保険業を除く)の財務諸表を集計した統計ですので、この統計をみることにより、わが国の法人企業全体でみた売上高や経常利益の増減、バランスシートの現状、設備投資金額等を把握できます。また業種別、企業規模別の動向も知ることができます。

今週の株式相場見通し

先週の株式相場は、前週末の米国株式相場が大幅安となったことを受けほぼ全面安で始まりました。買戻して反発したものの薄商いの中値動きの荒い動きとなりました。為替相場が円安になり、原油価格が反落すると買い安心感が広がり、月末の日経平均は14338円で引けました。

今週の株式相場は、資源価格の上昇に歯止めがかかりそうな気配があるものの、厳しい企業業績見通しなどから上値の重い展開が予想されます。日経平均株価で14000~15000円のところは累積売高が少なく、15000円を目指す上昇トレンドは継続していると思いますが、目先的には売り圧力に押されることになりそうです。

都市部の不動産価格の上昇に変化が出てきたことやガソリン価格の上昇が続いていることなどから不動産、消費、自動車関連株などは軟調な展開が予想されます。

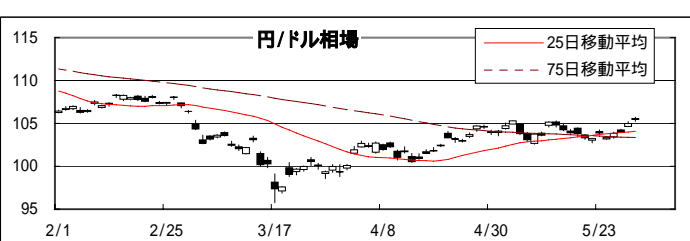
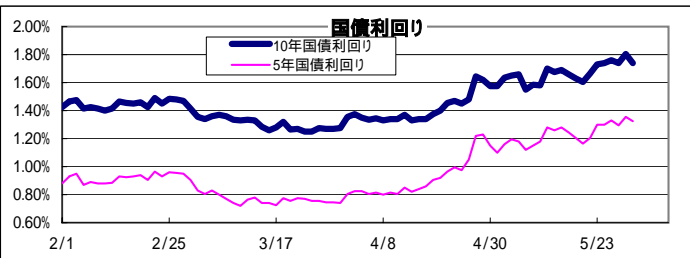
今週の債券・為替相場見通し

先週の債券相場は、株価が軟調になる場面があったにも拘らず、原材料高によるインフレ懸念が払拭できず弱含みの動きとなり、さらに株価の反発や円安などを受けて29日には10年国債利回りが1.805%まで上昇しました。週末は買戻しなどが入り1.740%で引けました。

今週の債券相場は、3日に10年国債の入札が行われます(利率は前回比+0.1%の1.80%となりそう)が、そこそこの需要が見込め一旦は利回りの低下が予想されるものの、インフレ懸念も根強く、10年国債利回りで1.72~1.83%程度の推移となりそうです。

先週の為替相場は、1ドル=103円台前半で始まりましたが、原油の反落を受け円安・ドル高が進み、月末の資金決済に絡むドル買いも入り1ドル=105円台後半まで円が売られました。

今週の為替相場は、米金利の上昇が継続していることや資源国通貨の上昇に一服感が出てきていることなどからドル買いの動きが強まり円は引き続き軟調な展開が予想されます。



本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものであり、その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイド ファイナンシャル プランナー®は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。